

## 「笹川杯日本を知る作文コンクール 2025」(日本語版)

## 参赛信息表：

姓名	姚楠	性别	女	出生年月	2004年12月18日
院校・公司	岭南师范学院	专业・年级	日语 大三		
通讯地址	广东省湛江市赤坎区寸金街道寸金路29号岭南师范学院				
电话	15768416038	微信	Bray0501		
邮箱	2352199797@qq.com				
指导教师	黄丽诗	电话	15017399600		
邮箱	616589956@qq.com				

声明：此个人信息仅用于本赛事的活动通知使用。

作文附于线下

## 雪は消え、桜は散る

## ——日本の美意識「物の哀れ」

日本を訪れた人の多くが感じるのは、一目で「ここは日本だ」とわかる独特さだろう。日本は自国文化の特色を巧みに表現する国で、そのため生み出される文学作品も、独自のスタイルと個性的な味わいを持っている。

どれほど世の中の文学を読んでも、日本の作品だけは私の心に特別な位置を占めていた。高校三年生の時、芥川龍之介の作品を読みたいと思いつつも、受験や勉強で機会がなかった。それで模擬試験で芥川作品の抜粋の『蜜柑』の一節を見つけた時、本当に興奮した。文中の純真無垢な子供、主人公の目に炎のように映った蜜柑の空の軌跡は、私を強く引きつけた。読み

联络：孙研 电话：010-68315335 13681133056 (可微信)

地址：100037 北京市西城区百万庄大街24号 中国外文局亚太传播中心 人民中国杂志社

耽るうちに時間の経過も、模擬試験の緊張も忘れてしまい、気づいたら解答時間を大幅に超過して、慌てて問題を解き始めた。今思い返しても笑みがこぼれる。

日本の文学が魅力的なのは、作家の高い文学的造詣だけでなく、中に含まれる「物の哀れ」の美意識にも理由がある。物の哀れとは、人や自然、出来事の無常と一時性に対し、深く繊細な美的感嘆と共鳴を覚えることで、消極的な悲観ではなく、生命の本質への洞察と共感を伴うものだ。

『蜜柑』<sup>1</sup>を例にすると、暗い車内の陰鬱さと、少女が窓から蜜柑を投げた瞬間の鮮やかさのコントラストは、物の哀れの本質としての儚さや不完全さへの鋭敏な感受性を深く表現している。少女が必死に蜜柑を投げた瞬間、鮮やかな色彩が灰色の闇を切り裂いた。小説は環境の汚濁と人物の卑俗さを強調するが、この退廃的な背景の中で、芥川は極限のコントラストで「物」の審美的昇華を成し遂げた。最も卑小な存在にこそ、最も感動的な美が宿るのだ。この底辺の者の尊厳の発掘は、物の哀れの本質に合致し、無常の世相から深い情感を感知させる。

蜜柑の色は「私」の嫌悪から共感への物のあはれの覚醒を呼び起こした。その放物線は感情の連なりを象徴し、一瞬に階級の隔たりと心の壁を溶かし、冷淡な都会人の「私」に、兄妹が寄り添う温もりを悟らせた。この「瞬間の悟り」は、桜の散る時の悲喜の情感に似て、物の哀れの美学における「寂」と「憐れみ」の統一を体現している。また蜜柑のイメージは、暖かな色彩、儀式的な投げる動作、暮れゆく野原への不確かな落下によって、物の哀れ特有の余情の美を引き継ぎ、荒涼な風景と感動の間に深遠な趣きを与える。

物の哀れは日本人の民族性の一部になっているようで、それが桜が国花たり得る理由だろう。桜の「生きる時の華やかさ、散る際の静かな美しさ」は、人々に今を大切にし、はかない命の美しさを感じ取るよう促す。

物の哀れは「哀」だけでなく、その底色から生命の力強さや鮮やかな色彩を感じ取るものだ。雪が溶けて消え、桜が咲いて散るように、一度咲き、存在したことだけで十分なのだ。

---

芥川龍之介『蜜柑』